

## アーク放電 (展示場4階)



「アーク放電」(学芸員の展示場ガイドより1コマ)

展示場4階には新しいきれいな展示に交じって年代物の展示がいくつか置かれています。その一つが1994年の第一次展示改装で導入された「アーク放電」です。27年経っても、まだ現役です。

月刊うちゅう2010年5月号で大倉学芸員が紹介している古い展示ですが、このたび、新たに「学芸員の展示場ガイド」を作成し、YouTubeで公開しました。

アーク放電は単発の火花放電とも、低圧下での微弱なグロー放電とも違い、大きな電流が連続的に空中を流れます。高い熱と強い光が発生するので、電気溶接や「アーク灯」に使われました。アーク灯は1878年3月25日、日本で初めて灯った電灯で「電気記念日」の由来にもなりました。ちなみに1878年は、イギリスでスワン卿が白熱電球に関する特許を取った年です。以後、白熱電球の方が照明の主役になっていきます。動画を見ながら、古き良きアーク灯の光を感じてください。

※動画のURLはこちら→[https://youtu.be/OW6jv\\_RtMp0](https://youtu.be/OW6jv_RtMp0)



石坂 千春(科学館学芸員)